

たかやま共創ミーティング（第3弾）2回目

○テーマ これからの広報活動（情報発信）方法について考える

○ミーティング内容

市民メンバーによる提案

- ・「情報の区分け」「将来情報」「リアル情報」「民間・市民団体・市民との協力」の視点による広報
（具体提案）
 - ①情報の区分け（発信内容によって、市民向け、観光客向け、移住者向けなどターゲット別に情報を分ける）
 - ②ホームページのイベントカレンダーの充実（民間や市民団体のイベントなど市以外の情報を載せる）
 - ③ロコミ要素を活用した小冊子による情報発信
 - ④高山市の広報媒体を、民間・市民団体・市民に一部開放
 - ⑤インタラクティブなプラットフォームの導入（モバイルアプリの開発やオンラインコミュニティの形成による相互作用機能）
 - ⑥市民参加型プロジェクト（市民リポーター制度や地域の問題解決ワークショップ）
 - ⑦公共スペースにデジタルサイネージを設置し、リアルタイムの情報発信
 - ⑧マルチメディアの活用
- ・市外へ出て、現在高山に住んでいない方にも情報が届く仕組みづくり
- ・地元の人が知らない、移住者から見た「住むのにいい高山の良さ」の発信
- ・特別なことをしなくても勝手に情報が入る仕組みがあれば、その先は各自が情報を取りに行くもの。デジタルサイネージや町内会の掲示板を活用した情報発信や、今より一つ先の「市民が知りたい情報」を掲載することで、その先の情報を取りに行きたくなる。

意見交換

- ・情報を受け取りにいかない人へのアクションが必要ではないか
 - 1日目のミーティングで市の広報媒体の多さを知った。市が行っている広報媒体や情報の取り方を知らせるための「広報の広報」をやってみるのもいい（広報担当と市民との対談形式の動画作成など）
 - すでに多くの媒体を活用して質・量ともに高い水準にある発信力を市民にしっかり知らせる事も重要
 - ストーリーのある情報発信（情報と情報をつなげていく）
例：募集案内には、参加を促すメッセージとともに過去の体験や様子が分るものをプラスするとストーリー性が出てイメージしやすくなる
 - 「見るぞ」と構えず、何気なく見られる親しみやすい発信（ゲーム感覚で市の情報にふれる、市長や市職員の日常をアップするなど）
 - 喫茶店や医療機関、スーパーなどとの連携（ターゲットを絞った情報を流す、広報紙の配置など）
- ・市の広報媒体の一部を民間・市民団体・市民に開放することで、情報発信者としての当事者意識をもち、広報への関心が高まる。市民団体などの交流が関り合いの機会になり、互いの情報にも敏感になり刺激を受ける
- ・イベントカレンダーの充実、民間と市・民間同士の連携を深める一因になる